

プレスリリース

大阪・関西万博のハンガリー・パビリオンがオープン

日本市場に向けた観光・経済振興の鍵としてのハンガリー・パビリオン

2025年4月13日、大阪 — ハンガリーのナジ・マールトン経済大臣が本日、2025年大阪・関西万博における「ハンガリーパビリオン」の開館式を行いました。同パビリオンは、営業許可を最も早く取得した国の一つであり、会場内でも最速で完成した施設のひとつです。会期中、ハンガリーは独自のパビリオンを通じて、自国の文化を世界に向けて積極的に発信してまいります。大阪万博は、6ヶ月間で2,800万人以上の来場が見込まれ、そのうち約8割が東アジア地域からの来場者とされています。このような国際的な注目を集める機会において、ハンガリー・パビリオンは、観光誘致および経済関係強化の両面において、ハンガリーにとって大きな可能性を秘めています。

昨年、ハンガリーは観光面で過去最高の実績を記録しました。年間で1,800万人以上の観光客が訪れ、宿泊数は4,400万泊を超えました。ブダペスト空港の年間旅客数も1,760万人を突破し、観光地としての人気の高さが明らかになりました。さらに今年の統計では、特に東アジアからの旅行者が前年比で37%増加しており、今後さらなる成長が期待されています。

ナジ経済大臣は会見の中で次のように述べました。「ハンガリー・パビリオンの目的の一つは、我が国への旅行意欲を喚起し、ハンガリーの魅力を発信することです。2025年の第1四半期には、東アジア地域からの訪問者数が2024年の同時期と比較して40%増加いたしました。このような背景から、私たちは大阪万博への出展が、同地域からの観光客誘致をさらに促進するものと確信しております。」

また、ハンガリーは日本にとって戦略的パートナーであり、両国は156年にわたる外交関係を背景に、経済・政治面での緊密な協力関係を築いています。これに伴い、ハンガリーは今年大阪に新たな総領事館を開設予定であり、両国の関係が今後ますます強化されることが期待されます。

大阪・関西万博に登場した「ハンガリー・パビリオン」は、来場者を一目で引き込むユニークな建築デザインで注目を集めています。ファサードに並ぶ35,000枚以上の布製ラメラは視覚的インパクトを与えると同時に、訪れる人々に特別な体験を提供します。この建物は、ハンガリーという国を知るための「門」として機能し、ハンガリー人の創造力と技術力を象徴しています。

パビリオンの設計を指揮した、コシュート賞およびイブラ賞を受賞した建築家、ゾボキ・ガーボル氏が次のように述べています。「大阪のハンガリー・パビリオンは、“内なる旅”へと誘います。ハンガ

リーの民族音楽を通じて、日本とハンガリーの文化に共通するモチーフや精神性、自然とのつながりを体感していただけます。五音音階によって、人類最古の普遍的な音楽の遺産にも触れていただけます。」

パビリオン内には、ハンガリーのクラフト製品を揃えたギフトショップ、ビストロスタイルのレストランとワインバーが併設されており、これらの空間は、訪問者にハンガリーの魅力を身近に感じてもらいながら、観光促進と経済交流の拡大を目指す戦略的な拠点として機能しています。

パビリオンは4つの主要スペースで構成されています：ハンガリー産品を販売するギフトショップ、郷土料理とワインを楽しめるレストラン＆バー、民族音楽と文化を体験する没入型展示空間、そして最上階にはビジネスミーティングやワークショップに対応した多目的スペースがあります。

万博は、参加国・機関同士の経済・外交関係を深めるための唯一無二の場です。ハンガリーはこの国際的な舞台で、自国の創造性、専門性、自然と文化の遺産、そして人々の温かいもてなしの心を世界に発信します。パビリオンでは、ハンガリー民族音楽が中心的な役割を果たしており、展示空間だけでなく、万博会場内の様々なステージで行われる文化・音楽イベントを通じて、国際的な来場者にその魅力を広く伝えていきます。

ハンガリーは、万博の建設許可取得・完成においても先陣を切り、わずか1年で施設を完成させました。これは日本とハンガリーの施工企業の緊密な協力と高い技術力の賜物であり、両国の専門性と信頼関係の象徴でもあります。ハンガリーの国家イメージ向上に貢献するとともに、観光および投資先としての新たな魅力を提供するものです。この万博は、参加国間の経済・外交関係を強化させる貴重な国際舞台であり、ハンガリーにとっても、自国の創造力、伝統、ホスピタリティを世界に発信する絶好の機会です。ハンガリー・パビリオンは、単なる展示スペースではなく、将来的な観光誘致や海外投資を見据えた戦略的な“国の窓口”としての役割を果たします。